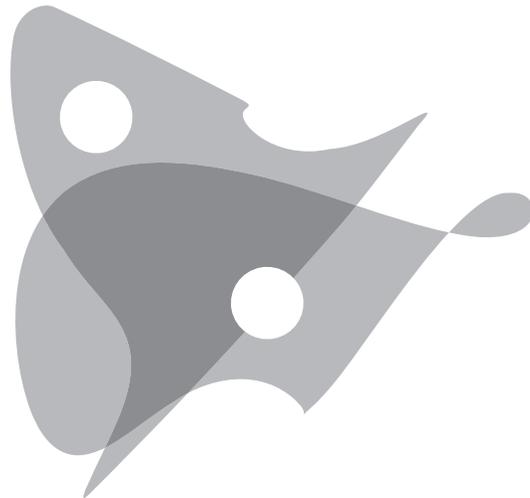


第 6 章

子どもの学年による 子育ての違い

木村 治生



小学1年生

子どもとのかかわりが密接な小1生の母親。子どもとよく話し、一緒に行動することも多い。生活習慣がまだ十分身につけていないので、しつけにも気を配っているが、その分「しつけの仕方」についての悩みも抱えている。学習面の心配は、まだ少ない。

● 日ごろのかかわり・しつけについて

「子どもに一日のできごとを聞く」（「よくある」75.4%）、「子どもと『友だちや先生について』話をする」（同66.2%）など、小1生の母親は子どもとよくコミュニケーションをとっている。「子どもと一緒に出かける」（同81.1%）などの行動も、他の学年に比べて一番多い。「子どもがどういう友だちとつきあっているかを知るようにしている」（「とてもあてはまる」＋「まああてはまる」95.0%）など、子どもに関する情報を母親が管理し、「子どもがすることを親が決めたり、手伝ったりすることがある」（同68.2%）や「親子で意見が違ふとき、親の意見を優先させている」（同66.4%）など、子どもへの関与も他の学年と比べて強い。

● 悩み・気がかりについて

複数回答（34項目中あてはまるものを選択）の結果では、「ほめ方・しかり方」（47.3%）、「しつけの仕方」（35.2%）など、子どもへのしつけに対する悩みが相対的に多い。また、「食事のしつけ」（46.6%）、「食事のとり方」（36.6%）、「食の安全性」（30.7%）など、食に関連する悩みや気がかりをもつ母親も多い。一方で、「家庭学習の習慣」（25.3%）、「学校の宿題や予習・復習」（17.9%）、「子どもの教育費」（15.9%）、「子どもの進路」（8.7%）、「勉強の成績」（5.5%）、「受験準備」（3.3%）などの、学習や進路・進学にかかわる内容について気がかりに思う母親が少ない。小1生の母親にとっては、まだリアリティが感じられない問題のようである。

● 学校への期待と満足について

小学校低学年の母親の学校への満足度は、総じて高い。小1生では、「忘れ物をしないための指導」（「かなり満足している」＋「まあ満足している」83.4%）、「授業中に騒いだり、立ち歩いたりしないよう指導すること」（同80.1%）、「文房具や教科書を大切に使うよう教えること」（同73.1%）などが他の学年よりも満足度が高く、学校生活を送るための基本的な姿勢についての指導やしつけを高く評価していることが分かる。学校の取り組みとして重要だと思うこと（18項目中3つ選択）では、「いじめ問題や友だち同士のトラブルへの対応」（56.8%）をあげる母親が多く、子どもが集団生活になじめるように配慮してほしいというニーズがうかがえる。

● 学習について

家庭で「ほとんど毎日」勉強しているのは27.2%、「週に半分以上」は30.2%と、過半数が週に半分以上家庭学習をしている。この割合は、小3生に次いで多い。1日あたりの学習時間の平均は33.5分である。30分程度の学習を週に半分以上やるというのが小1生に多いパターンのものである。

母親の意識としては、小1生の段階ですでに過半数が四年制大学以上（「四年制大学まで」49.0%、「大学院まで」4.5%）を希望している。しかし、学習についての質問（複数回答）では、「学校生活が楽しければ、成績にはこだわらない」（39.7%）という回答が相対的に多く、「今は勉強することが一番大切だ」（11.4%）と考える母親は少ない。

小学2年生

小2生は自分一人でできることが増え、自立が始まるとともに、少しずつ母親の手を離れていく。気がかりでは、学校生活にかかわる項目を選択する母親が相対的に多い。学習面での不安感はまだ小さいが、学校に対して基礎学力の重視を望むニーズが強まる。

● 日ごろのかかわり・しつけについて

生活習慣については、「遊んだあとの片づけや部屋の整理整頓」が「できる(完全に一人で+だいたい一人で)」のが50.3%で、すべての学年のなかで最低である。低学年のうち、まだ身の回りの整理が苦手であることが分かる。しかし、「翌日の学校の用意や準備をすること」が「できる」割合が、小1生73.8%→小2生83.1%になるなど、総じて一人でできることは増える。友だちとの世界が広がり始めるためか、「子どもと一緒に出かける」(「よくある」小1生81.1%→小2生73.6%)、「子どもと一緒に遊ぶ」(同29.1→21.0%)など、一緒に行動する機会は減る。少しずつではあるが、小2生は母親から離れて、自分のできることを広げ始める時期であるようだ。

● 悩み・気がかりについて

少しずつ自立が始まる小2生だが、悩みや気がかり(複数回答)については子どもの学校生活にかかわる項目で数値が上昇する。たとえば、「翌日の学校の用意や準備をすること」(33.8%)や「学校生活の様子」(31.5%)、「友だちにいじめられていること」(4.8%)を気がかりとしてあげる母親は、すべての学年のなかで最も割合が高い。

一方で、教育方針の項目では「子どもの将来を考えると、習い事や塾に通わせないと不安である」に「あてはまる(とても+まあ)」と回答する母親は39.3%で、すべての学年のなかで最低である。「教育に必要なお金はかけるようにしている」(同59.8%)も最低で、学習面での切迫した悩みはまだ少ない。

● 学校への期待と満足について

学校への期待(18項目中3つ選択)では、「子どもの学習進度や興味・関心にあった教え方をすること」(34.3%)がすべての学年のなかで最低である反面で、「教科の基礎的な学力をつけること」が小1生よりも増加する(小1生35.7%→小2生38.5%)。基礎学力を身につける指導に、母親のニーズも移行していくようである。総じて学校への満足度は小1生のときから下がるが、とくに学習面での低下が著しい。「満足している(かなり+まあ)」の割合を比較すると「教科の基礎的な学力をつけること」小1生71.7%→小2生67.7%、「宿題の内容や量」(同70.3→62.6%)、「家で勉強方法や学習時間についての指導」(同61.7→57.2%)と低下する。

● 学習について

家庭学習の平均時間(塾なども含む)は、小1生から約7分増加して40.4分になる。

子どもの学習へのかかわり方をみると、「子どもが勉強していて分からないところを教えてあげる」(「よくある」小1生57.7%→小2生52.5%)、「学校や塾のノートに目を通す」(同42.6→32.6%)、「学校の宿題を手伝う」(同18.2→11.0%)と、学習内容にまで深くかかわる機会は減る。しかし、「学校のテストの点数を確認する」(同63.6→65.9%)、「『勉強しなさい』と声をかける」(同39.5→42.1%)といったかかわりは増えている。

学校外の学習機会では、「定期的に教材が届く通信教育」を選択する者が32.1%と3割を超える。

小学3年生

生活習慣で一人でできることは一層増えるものの、小3生ごろから母親の要求水準も高くなってくる。とくに、整理整頓や規律正しさなどを求める傾向が強まる。学習面でも、自分で「計画的に勉強すること」をきちんとやってほしいと回答する母親が4割を超える。

● 日ごろのかかわり・しつけについて

生活習慣は、小2生のときよりも一人でできることが多くなる。そのように自立が進む一方で、子どもに対する要求水準も高まる。たとえば、「もう少しきちんとやってほしいこと」(複数回答)をあげてもらうと、「遊んだあとの片づけや部屋の整理整頓」(小2生46.4%→小3生49.3%)、「計画的に勉強すること」(同31.1→40.2%)など、数値が上昇する。

家庭で心がけていることについての質問でも、「朝起きる時間や夜寝る時間など規則正しい生活リズムをつける」(「とても心がけている」44.6%)、「多少いやなことがあっても我慢するようにしつけている」(同29.9%)などの割合が相対的に高く、自己規制や規律正しさなどを求め始める時期のようである。

● 悩み・気がかりについて

悩みや気がかり(複数回答)についてとくに小3生に多いものを概観すると、「整理整頓・片づけ」(65.2%)、「お金の使い方」(31.2%)、「あいさつやお礼の習慣」(28.3%)などがあげられる。ここにも、母親は子どもに規律正しさのようなものを求め、子どもがその要求に応えきれていない様子がうかがえる。また、「仕事と家庭の両立」という母親自身の悩みが増える(小2生19.5%→小3生25.5%)のも、中学年の特徴である。子どもに手がかからなくなり、働き始める母親が増えるためである。「専業主婦」は減少(小2生47.9%→小3生40.5%)し、「パートやフリー」(同30.0→34.8%)と「常勤」(同15.1→18.8%)を合わせると半数を超える。

● 学校への期待と満足について

学校への期待(18項目中3つ選択)では、「子どもの学習進度や興味・関心にあった教え方をすること」(40.2%)を選択する割合が上昇し、すべての学年のなかで最も数値が高くなる。小3生から子どもの興味・関心を重視した「総合的な学習の時間」が始まることを反映している可能性がある。

満足度(「かなり満足している」+「まあ満足している」)については、小1~小6生の中に位置づく項目が多く、とりわけ高い、もしくは低いという項目は見いだせない。「中学受験・高校受験に役立つ学力をつけること」以外のすべての項目で、満足度は5割を超えており、学校への評価は比較的安定しているようである。

● 学習について

家庭学習の平均時間(塾なども含む)は、小2生から3.5分増加して43.9分になる。学習時間は増えるものの、上述したように「もう少しきちんとやってほしいこと」(複数回答)として「計画的に勉強すること」をあげる母親は、小3生になると4割を超える。学習面での母親の要求が高まるためだと考えられる。

一方で、子どもの学習へのかかわりは、小2生のときから一層減少する。「学校のテストの点数を確認する」(「よくある」小2生65.9%→小3生61.9%)、「子どもが勉強していて分からないところを教えてあげる」(同52.5→47.1%)、「学校や塾のノートに目を通す」(同32.6→24.2%)という具合である。

小学4年生

小4生の母親は、他の学年の母親に比べるととりたてて高い数値を示す悩みや気がかりもなく、子どもの様子を見て不安になることも少ない。比較的、親子関係が安定している時期のように見える。そのようななかで、一部であるが、中学受験を気にする母親が出始める。

● 日ごろのかかわり・しつけについて

小4生は学校生活にも大きな変化はなく、親子関係も比較的安定する時期のように見える。「子どもの様子を見ていて、つい不安になることがある」に「よくある」と回答する母親は、すべての学年のなかで最低で9.1%だった。

しつけで心がけていることでは、「友だちづきあいは大切にできるように教えている」が59.0%（「とても心がけている」）とすべての学年のなかで最も高い割合であり、友人関係が広がるこの時期に、その大切さを伝えていることが分かる。「自分でできることは自分でさせるようにしつけている」（55.3%）も第1位で、自立を促す働きかけにも配慮しているようである。

● 悩み・気がかりについて

悩みや気がかりについても、他の学年に比べて数値が著しく高かったり低かったりする項目は少なく、小1～小6生の変化の推移の中間に位置づく項目がほとんどである。そのなかで、小3生からの変化という視点でながめると、進路・進学面での悩みや気がかりが増え始めていることが注目される。たとえば、「子どもの進路」を選択（複数回答）する母親は、小3生15.2%→小4生19.4%と2割弱になり、同様に、「受験準備」も同6.7→11.3%と1割を超える。他の地域より中学受験をする子どもが多い首都圏では、小4～小5生にかけて中学受験をするかどうかを考え始めるため、進路・進学面での気がかりが増加したと推察される。

● 学校への期待と満足について

学校への期待（18項目中3つ選択）では、「いじめ問題や友だち同士のトラブルへの対応」（51.8%）と「子どもが人間的に成長するのを助けること」（49.6%）が第1位、2位である。この2項目が上位であることは、他の学年もかわりない。

注目されるのは、この2項目の満足度が他の学年よりも高いことである。「いじめ問題や友だち同士のトラブルへの対応」に「満足している（かなり+まあ）」のは72.8%、「子どもが人間的に成長するのを助けること」は70.6%であり、この数値はすべての学年のなかで最も高い。一番重要に考えていることの満足度が高いという意味でも、小4生の母親の学校評価は高いと考えられる。

● 学習について

家庭学習の平均時間（塾なども含む）は、小3生から4.1分増加して48.0分になる。

習い事についても、一部の子どもは中学受験を意識した行動をとり始める。たとえば、「受験のための塾」は、小3生5.2%→小4生11.3%になる。ただし、小4生の段階では、「定期的に教材が届く通信教育」（25.5%）で学び、「スイミングスクール」（28.4%）や「地域のスポーツチーム」（23.6%）に通い、「楽器」（23.7%）を習うほうが一般的である。「できるだけいい大学に入れるよう、成績を上げてほしい」と考える母親が12.2%（複数回答）で、すべての学年のなかで最も低いなど、母親の意識にもものんびりとした面がまだ垣間みられる。

小学5年生

一緒に行動する機会は減るが、将来や進路について話すことが増えるなど、会話の中味が変化してくる。「自分でできるはずなのに……」と思うためか、起床・就寝時間や歯磨きなど基本的な生活習慣についての気がかりが増えるのが、小5生の母親の特徴である。

● 日ごろのかかわり・しつけについて

子どもとのコミュニケーションの機会は、小学校低学年、中学年と比べるとさらに減少する。たとえば、「学校の参観日や運動会など行事に参加する」は、小4生86.6%→小5生79.0%（「よくある」）、「子どもと一緒に出かける」同65.8→56.1%などとなる。しかし、一方で「子どもと『将来や進路について』話をする」は同15.5→23.0%と増加しており、会話の中味が変わってきていることを示唆している。家庭で心がけていることとして、「子どもの帰宅時間には、だれかが家にいるようにしている」が45.7→37.4%（「とても心がけている」）に減少するなど、おとなになり始めたので少しくらい目を離しても大丈夫だという母親の思いも感じられる。

● 悩み・気がかりについて

生活習慣に関する悩み・気がかりが増えるのが、小5生の子どもをもつ母親の特徴である。たとえば、「生活リズムと朝起きる時間・夜寝る時間」（複数回答、小4生27.7%→小5生33.3%）、「歯磨き・手洗いの習慣」（同22.5→31.0%）の気がかりが増える。「家でのテレビゲームやマンガなどの遊び」も30.6%で、すべての学年のなかで最も高い割合である。もう少しきちんとやってほしいことを聞いた項目（複数回答）でも、「決まった時間に起床・就寝すること」23.7%、「歯磨きの習慣」17.9%は、すべての学年のなかで最も多い。「自分でできるはず」という気持ちが強まること、それに反して子どものだらしなさが目につくことが影響した結果かもしれない。

● 学校への期待と満足について

小5生の母親の学校に対する満足度も、総じて高い。「満足している（かなり十まあ）」の割合を全般的にみると、小1生の母親が最も評価が高く、小2～小5生は多少下がるものの高い評価で安定し、小6生で満足度が落ちる項目が多い。

そのようななかで、小5生の母親に特徴的な傾向をあげると、**直接の学習指導ではない面での満足度が上昇すること**である。たとえば、「スポーツ能力や体力の向上」（71.8%）、「行事や委員会活動、部活動・クラブ活動などを十分に行うこと」（81.0%）、「コンピュータを使う力をつけること」（59.4%）などの項目は、すべての学年のなかで最も数値が高い。

● 学習について

家庭学習の平均時間（塾なども含む）は、小4生から13.6分増加して**61.6分**になる。時間帯別にみても、「ほとんどしない」と「およそ30分」の合計が5割を下回るようになる。この時期から、「1時間」程度が家庭学習時間の目安になりそうである。

中学受験については、「させる」（小4生14.8%→小5生18.0%）、「させない」（同60.9→63.6%）が増加し、「まだ決めていない」（同21.6→13.1%）が1割強に減少する。この時期には**多くの家庭で中学受験をするかしないか決断している**。

学習へのかかわりはさらに減少し、「子どもが勉強していて分からないところを教える」は30.3%（「よくある」）になる。

小学6年生

中学受験をさせるつもり約2割の母親にとって、受験を乗り越えることが大きな課題になっているようだ。悩み・気がかりでは、進路や受験、教育費などを選択する割合が増加する。それ以外では、学校に対する満足度の低下が、傾向として目立つ。

● 日ごろのかかわり・しつけについて

日ごろのかかわりは、小1生から減少し続ける項目が多い。「子どもと一緒に出かける」(「よくある」小5生56.1%→小6生52.7%)、「子どもに一日のできごとを聞く」(同59.9→51.6%)、「子どもと『友だちや先生について』話をする」(同59.4→53.1%)などは、小学生のなかでは最も低い数値である。このようにかかわりは減るものの、自らの成長は実感しているようである。「子どもをもつことによって自分自身が成長したと感じる」(同52.4%)は、全学年を通じて最も高い数値である。生活習慣にかかわる自立も進んで、「もう少しきちんとやってほしいこと」も多くの項目で数値が下がる。そのため成長を振り返る余裕が生じたのかもしれない。

● 悩み・気がかりについて

複数回答(34項目中あてはまるものを選択)の結果では、生活習慣にかかわる気がかりが減少し、学習面での気がかりが増える傾向にある。「整理整頓・片づけ」は他の学年と同様に小6生の母親にとっても最も気がかりなことであるが、選択する割合は小5生64.6%→小6生56.6%と減少する。同様に、「翌日の学校の用意や準備をすること」(同29.6→25.4%)、「歯磨き・手洗いの習慣」(同31.0→22.6%)などは減る。一方で、「子どもの教育費」(同19.9→24.7%)、「子どもの進路」(同24.7→25.7%)、「受験準備」(同16.1→18.9%)などは増加傾向にある。これらの気がかりは中学受験をさせる母親に顕著で、受験生を抱える家庭では切迫した問題であるといえる。

● 学校への期待と満足について

学校の指導や取り組みに対する満足度(「かなり満足している」+「まあ満足している」)を小5生と比較すると、18項目中16項目で数値が低下している。小学生のなかでは、小6生の母親が最も満足度が低い。たとえば、学校への期待が最も強い「いじめ問題や友だち同士のトラブルへの対応」は、小5生70.7%→小6生62.7%である。同様に、「子どもが人間的に成長するのを助けること」(同69.4→65.0%)も低下する。学習面でも、「教科の基礎的な学力をつけること」同67.6→62.2%、「宿題の内容や量」同62.6→58.5%、「子どもの学習進度や興味・関心にあった教え方をする」こと同57.0→51.5%となる。小学校では、小6生の保護者へのフォローが課題になりそうだ。

● 学習について

家庭学習の平均時間(塾なども含む)は、小5生から15.0分増加して76.6分になる。これは、「3時間」以上の回答が、小5生6.8%→小6生14.6%と増加するためである。中学受験をする子どもたちの影響で、平均値が伸びたと考えられる。ちなみに、今回の調査対象では、小6生の母親の20.9%が中学受験を「させる」と回答した(首都圏が分析対象。他の地域よりも高い。p.66を参照)。

学習観についての質問(複数回答)では、「学校生活が楽しければ、成績にはこだわらない」が小5生37.1%→小6生32.2%と減少する一方で、「今は勉強することが一番大切だ」が同16.1→21.6%と増加している。これらも、受験を意識した回答と考えられる。

中学 1 年生

家庭学習や学校での学習に関する気がかりが増えるのが、中1生の母親の特徴である。受験を強く意識した悩みではないが、自分で計画的に学習してほしいという意識が強まる。学習内容にまでかかわることは少なくなるが、テストの点数などは気にしている。

● 日ごろのかかわり・しつけについて

話をする機会については小6生と変わらないが、一緒に行動する機会は格段に減る。「子どもと一緒に出かける」は、小1生81.1%（「よくある」）→小6生52.7%と漸減していくが、中1生では39.0%と大きく減少する。

家庭で心がけていることでは、「あいさつやお礼ができるようにしつけている」（「とても心がけている」68.4%）、「目上の人・先生・高齢者などへの言葉づかいを教えている」（同51.4%）が、すべての学年のなかで最も割合が高い。この時期、対人関係上の礼儀についてのしつけに配慮しているようである。

教育方針では、「子どもの教育・進学面では世間一般の流れに乗り遅れないようにしている」という意識が、小学生のときより強まる。

● 悩み・気がかりについて

悩み・気がかり（複数回答）では、家庭学習や学校での学習についての項目の数値が高くなる。たとえば、「家庭学習の習慣」（小6生27.5%→中1生42.4%）、「学校の宿題や予習・復習」（同24.4→38.8%）、「勉強の成績」（同17.1→33.7%）といった具合である。ただし、「受験準備」（同18.9→13.5%）を気がかりに思う母親はまだ1割強で、**受験を意識した悩みというよりも、学校の勉強をしっかりしてほしいという思いや、部活動などとの両立の心配のほうが強い**ようである。もう少しきちんとやってほしいこと（複数回答）を聞いた項目でも、「計画的に勉強すること」が47.8%で、すべての学年のなかで最も高い割合となった。

● 学校への期待と満足について

学校への期待（18項目中3つ選択）では、「子どもが人間的に成長するのを助けること」「いじめ問題や友だち同士のトラブルへの対応」「教科の基礎的な学力をつけること」「子どもの学習進度や興味・関心にあった教え方をすること」が上位4項目であることは、小学生と変わらない。中学生の特徴としては、「**家での勉強方法や学習時間についての指導**」（小6生7.0%→中1生12.5%）、「**中学受験・高校受験に役立つ学力をつけること**」（同4.8→12.9%）などが増加することである。

満足度については小6生から横ばいの項目が多いが、「家での勉強方法や学習時間についての指導」は「満足している（かなり+まあ）」が小6生49.4%→中1生58.5%と増加する。

● 学習について

家庭学習の平均時間（塾なども含む）は、小6生から3.8分減少して**72.8分**になる。「およそ30分」（18.3%）は減少し、「1時間」（28.3%）、「1時間30分」（16.7%）が増えるが、「3時間」以上する子どもが減る。中学受験で長時間勉強していた子どもがいなくなるためであろう。学習へのかかわりでは、「学校のテストの点数を確認する」（「よくある」小6生45.8%→中1生57.3%）、「『勉強しなさい』と声をかける」（同32.8→37.1%）はよくやっている。しかし、「子どもが勉強していて分からないところを教えてあげる」（同23.2→20.9%）、「学校や塾のノートに目を通す」（同13.9→7.6%）など、**学習内容にかかわることは減る**。

中学2年生

高校受験を少しづつリアリティのある課題として意識し始める中2生の母親。学習面での気がかりが増える。親離れが進むことや子どもが部活動で忙しいため、会話の機会は少なく、成長の実感はつかみづらいが、しつけや生活習慣についての気がかりは減少する。

● 日ごろのかかわり・しつけについて

中2生の母親は、日ごろの子育てのなかで、「子どもが親に対して思いやりのある言葉や態度を示してくれたと感じる」(「よくある」中1生38.9%→中2生33.0%)、「子どもが成長したと感じる」(同66.4→62.5%)などの実感を持つことが少ない。これは、会話の減少(「子どもに一日のできごとを聞く」同50.3→42.6%)とともに、子どもが部活動などで忙しく、一緒にいる時間が短いためであろう。休日の過ごし方で多いもの(19項目中3つ選択)をあげてもらくと、「学校でクラブ活動や部活動をする」は54.8%で、中2生が最も高い。

もう少しきちんとやってほしいこと(複数回答)では、「家事の手伝い」(22.6%)をあげる母親が、相対的に多い。

● 悩み・気がかりについて

悩みや気がかり(複数回答)では、「ほめ方・しかり方」(中1生31.1%→中2生28.1%)、「しつけの仕方」(同20.3→16.5%)など、しつけに関するものは減少する。「翌日の学校の用意や準備をすること」(同30.7→26.9%)、「歯磨き・手洗いの習慣」(同19.1→15.7%)など、生活習慣にかかわる項目も減る。だが、「子どもの進路」(同29.8→44.0%)、「受験準備」(同13.5→30.5%)など、学習面での気がかりが増える。中2生になると、高校受験がリアリティのある課題として浮上してくるようだ。「子どもの将来を考えると、習い事や塾に通わせないと不安である」と回答する母親も52.8%(「とてもあてはまる」+「まああてはまる」)で、すべての学年で最も高い。

● 学校への期待と満足について

学校の学習指導に関する満足度が低いのが、中2生の母親の特徴である。「教科の基礎的な学力をつけること」(「かなり満足している」+「まあ満足している」中1生62.9%→中2生54.3%)、「宿題の内容や量」(同58.1→51.1%)、「子どもの学習進度や興味・関心にあった教え方をすること」(同53.3→47.3%)といった具合で、これらはいずれも、すべての学年のなかで最も低い。また、「中学受験・高校受験に役立つ学力をつけること」(同50.8→41.6%)も満足度は低い。中2生の段階では、「受験のための塾」と「補習塾」を合わせても4割程度しか通塾しておらず、学習面での学校への期待は高いが、学校はそれに十分応えられていない様子がうかがえる。

● 学習について

家庭学習の平均時間(塾なども含む)は、中1生から8.5分増加して**81.3分**になる。「2時間」以上(「2時間」「2時間30分」「3時間」「3時間30分」「それ以上」)勉強する子どもが増加して3割になり、30分以下(「ほとんどしない」「およそ30分」)が2割5分、1時間台(「1時間」「1時間30分」)が4割となる。比較的よく勉強する子とそうでない子の分化が目立ってくる時期といえる。

ただし、学習日数(塾などを除く)は、中2生だけが少ない。たとえば、家で「ほとんど毎日」勉強する子は、中2生は17.1%だが、それ以外の学年では24.6~28.7%を推移する。部活動などの影響で、中2生は毎日学習することがむずかしいのであろう。

中学3年生

中3生になると生活面での自立が進むので、生活習慣やしつけに関する悩みは全学年のなかで最も低くなる。それに代わって、進路や進学面での気がかりが増大する。会話の内容も進路のことが多くなる。子どもの高校受験が、親にとっても大きな課題であることが分かる。

● 日ごろのかかわり・しつけについて

「家族みんなで食事をする」（「よくある」63.1%）、「子どもに一日のできごとを聞く」（同37.2%）、「子どもと一緒に出かける」（同26.6%）などは、全学年で最も低い数値である。日ごろのかかわりは少なくなるが、「子どもと『将来や進路について』話をする」は中2生25.8%→中3生40.2%と大幅に増加する。

しつけで心がけていることも10項目中7項目で、学年を通じて最も低い数値になった。自立が進む中3生の子どもに対して、生活習慣や礼儀正しさ、マナーやルールを守ることなどにいちいち気を配ることは少なくなる。「子どもがすることを親が決めたり、手伝ったりすることがある」が「あてはまる（とても十まあ）」のも35.5%で、最も少ない。

● 悩み・気がかりについて

悩みや気がかり（複数回答）は、進路・進学に関するものが中心となる。生活習慣に関する項目（「整理整頓・片づけ」52.2%、「食事のとり方」25.2%、「翌日の学校の用意や準備をすること」20.7%、「家でテレビゲームやマンガなどの遊び」23.6%など）、しつけに関する項目（「ほめ方・しかり方」23.6%、「しつけの仕方」13.2%、「お金の使い方」20.7%など）は、全学年で最も低い割合のものが多い。しかし、学習にかかわる項目（「子どもの進路」50.9%、「受験準備」50.5%、「子どもの教育費」26.6%など）は、最も割合が高い。5割以上が進路や受験を気がかりに思っており、中3生の母親にとって子どもの高校受験は大きな問題である。

● 学校への期待と満足について

数値は多少下がるものの、学校への期待（18項目中3つ選択）で、「子どもが人間的に成長するのを助けること」（45.8%）、「いじめ問題や友だち同士のトラブルへの対応」（39.9%）が小1生から一貫して上位2項目であることは、興味深い。学年によって学習面でのニーズが強まることもあるが、人間的成長の支援と人間関係づくりの援助は、学年を超えた学校の大きな役割であるといえる。

満足度では、多くの項目で中2生の母親よりも「満足している（かなり十まあ）」の割合が高まる。中2生は学習面での満足度が低かったが、中3生はやや回復する。そのなかで、「子どもの成績を客観的に正しくつけること」は64.5%で、全学年を通じて最も低い。

● 学習について

家庭学習の平均時間（塾なども含む）は、中2生から27.8分増加して109.1分になる。平均して2時間弱、学習していることになる。

学習へのかかわりでは、「学校のテストの点数を確認する」だけが5割を超える（「よくある」50.9%）が、それ以外の7項目はすべての学年を通じて最低の数値である。（たとえば、「子どもが勉強していて分からないところを教えてあげる」同8.0%、「学校や塾のノートに目を通す」同3.4%、「美術館や博物館に連れて行く」同2.2%など）。

希望する最終学歴は、「四年制大学まで」55.5%、「大学院まで」5.3%で、両者を合わせて6割を超える。この割合は、小1生以降、大きく変化することなく中3生にいたる。

